

## 島野先生の思い出

学習院大学名誉教授 小山昭雄

島野先生の追悼文を書くように依頼されたとき、私は迷った。先生は私よりも若く、専門とされておられた国際経済政策の分野については、私は何も知らない。したがって、先生の学問上の業績について評価する資格は、私にはない。しかし、30年近くのおつき合いの間には、思い出となるような話題はいくつかある。それらの中から拾った話を追悼文としたい。以下、島野先生を島野さんと呼ばせていただく。

私が島野さんと知り合ったのは、私がまだ上智大学に在職していた頃のことである。当時、島野さんも上智大学で非常勤講師として講義しておられたので、お名前だけは知っていた。

私が上智大学で講義していたのは、経済学部の学生に対する数学の授業であったが、私自身の関心は投資の経済効果を評価する問題にあり、ドイツのキール大学のシュナイダー教授の著書“Wirtschaftlichkeitrechnung”を読んでいた。読み終わった頃、この本が島野さんによって翻訳された。シュナイダー教授は島野さんがキール大学に留学しておられたときの指導教授であったことから、この頃は島野さんも、投資の経済効果を調べる問題に関心をもっておられたのであろう。私はその訳本を買って、シュナイダー教授の原本と対比しながら読んだ。そして、訳本の中のある部分について気になるところがあったので、私の意見を述べた手紙を島野さんに送った。島野さんから丁寧な返事をいただいた。この訳本の内容は、その後の島野さんの研究分野とは、あまり関係はない。しかし、私にとっては、島野さんと学問分野の問題について話し合った初めての機会として、忘れることの出来ない思い出である。

昭和40年代の中頃は大学の学園紛争が盛であった時期であり、上智大学でも大学での授業は不可能になり、教員も警備員のような仕事ばかりしていた。その頃、学習院大学から招かれて、昭和45年（1970年）に、私は上智大学をやめて学習院大学に移った。同じ時期に、都立大学におられた岡本哲治教授も、学園紛争に関連して都立大学を辞めて学習院大学へ来られた。

当時、学習院大学では毎年、11月23日の勤労感謝の日に、院内レガッタ（ボートレース）を戸田橋のボートレース場でおこなっていた。1973年の春頃、岡本先生から、秋の院内レガッタに経済学部の教員のクルーで出場しよう、と島野さんと私に声をかけられた。岡本先生は一高、東大時代にボートを漕いでおられ、日本を代表する選手の一人であられた。島野さんは旧制の高校、大学時代にボート部に所属しておられ、私は一高時代にクラス対抗のボートレースの選手をしていたからである。島野さんと私は喜んで参加することにしたが、ボートは4人乗りであったから、もう1人どなたかをお願いしようということで、恒松制治先生に加わっていただいた。恒松先生はボートを漕いだことはないということであったが、初めての経験としてやってみよう、ということで引受けていただいた。戸田橋のレース場での練習は楽しかった。23日の本番のレースでは、準決勝まで勝ち進んだが、決勝進出はできなかった。

戸田橋のレース場では、外国のクルーの参加する国際的なレースもおこなわれていた。私は、しばしば、そのようなレースを見に行った。ある年、ドイツのクルーが出場する国際レースがあり、そのとき、島野さんが通訳をしているお姿を見たことがある。

島野さんは絵画もお上手で、ある展覧会に出品した絵が外国人の目にとまり、売ってほしいと

云われて売った、と言っておられた。また、囲碁もお好きで、研究室にはすばらしい碁盤が置いてあり、碁好きの同僚と打っておられた。このように、個人としてはいくつもの趣味をもっておられたが、大学の運営という面にも深く関係してこられた。大学の教務部長や経済学部長などの要職もされている。

今、私は、惜しい人を失ったという思いと共に、淋しさを感じている。しかし、私の目から見れば、島野さんの一生は、為すべきことは殆どやり遂げた、という満足できるものであったのではないか、という思いがする。今はただ、御冥福を祈るだけである。